

医学生との共修による離島医療・福祉・保健実習の展開

○中嶋 弥穂子¹, 荒木 良介¹, 中里 未央¹, 前田 隆浩¹, 大園 恵幸¹, 青柳 潔¹, 塚元 和弘¹, 畑山 範¹(¹長崎大院医歯薬)

【目的】長崎大学薬学部では平成19年度より長崎県の地域性を活かした離島医療・福祉・保健実習（離島実習）を開始した。本実習は薬学生が地域医療の3本柱である医療・福祉・保健を、大学から離れた五島列島の病院、薬局、福祉施設、役所及び保健所で医学生と共修するプログラムで、地域に密着した福祉や保健の視点を持ち医療チームの一員である自覚を涵養することが狙いである。本発表では実習前後に行った学生アンケートの2年間の結果を比較し、本実習プログラムを評価したので報告する。

【方法】病院と薬局での6週間の実務実習を終えた薬学部4年生84名全員を21グループに分け、6月から12月まで上五島コースか下五島コースに1グループずつ派遣し1週間の離島実習を行った。医療機関での実習は薬学生のみで行ったが、福祉施設及び行政機関での実習を医学部5年生と共修した。平成20年度の実習では両コースとも福祉施設での実習を1日から2日へ増やした。また、役所や保健所の実習では、上五島コースは講義や見学を中心としたが、下五島コースは地域住民を対象に薬学生と医学生が一緒に健康講話を行ったり、グループディスカッションを行うなど共同作業を取り入れた。

【結果・考察】離島医療に興味があると回答した学生の割合は、本年度も前年度と同じ傾向であった。本実習が医学生との共修であることについて実習前の期待度は両コースともに同程度であったが、実習後の満足度は医学生との共同作業を行った下五島コースの方がそうでなかった上五島コースに比べて有意に高かった。医学生との共修による本実習プログラムは、地域医療に着目した薬剤師教育とチーム医療の実践に向けた職能の相互理解のために有用であり、特に健康講話などに積極的に取り組む共同作業を行うことが効果的であることが示唆された。